

学科 管理栄養学科	所感			
氏名 岡田 瑞恵	Preparation Classwork Review シートによって、予習・復習は元より、授業中の分からない箇所の自己学習スペースを活用し、自己学習を行えるよう努めた。また、本時のまとめを通し、その日の学修を振り返り能動的学修を進められるよう努めた。			
家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。 イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。 ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。 ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。				
1 教育の責任				
愛知学泉大学管理栄養学科の教員として 2025 年 3 月の時点で 4 年目の経験となった。健康の意識は受動から能動への転換が進み、健康は自らが積極的に維持する前衛的な取り組みの一つとなっている。日常の一つずつの選択が将来の健康をつくっている。そのため、「社会・環境と健康」領域における科目を通して、自身の健康維持と地域の健康づくり・ヘルスプロモーションの考えを通し、健康長寿を食の分野からアプローチできるよう教育に努めている¹⁾。 その他) ハラスメント委員、国試対策委員（管理栄養士）、クラス担任指導、卒業研究指導、入試出題、国試対策講座、高校出張講義、バス見学会、オープンキャンパスなど。				
科目名	学科	開講期	授業者数	備考
健康管理概論	1 年	1 年前期	64	管理栄養士必修科目
公衆衛生学Ⅰ	1 年	1 年後期	61	管理栄養士必修科目
公衆衛生学Ⅱ	2 年	2 年前期	76	管理栄養士必修科目
公衆衛生学実習	2 年	2 年後期	71	管理栄養士必修科目
臨床総合演習	4 年	4 年前期	60	管理栄養士必修科目
専門実践実習	3 年	3 年前期	23	管理栄養士必修科目
その他、国試対策関連オムニバス 3 科目	3 年・4 年	3 年後期 4 年前・後期	63/46/52	管理栄養士必修科目
取り組む				
リフレクションペーパーの改善への取り組みを活用し、授業の問題点を抽出して授業改善に取り組んでいる²⁾。具体的には、授業評価アンケート結果から、さらに、クラスルームを通じて寄せられた質問、中間テストの結果から改善点を抽出し、授業へ還元している。また、授業評価におけるリフレクションペーパーに改善案を記載している。				
3 教育方法				

健康管理概論（1 年前期）および公衆衛生学Ⅰ（1 年後期）は、「健康」の考え方として、これまでの受動的な捉え方から能動的な捉え方へ考え方をシフトさせる。つまり、ヘルスプロモーションの考え方を理解してもらい、健康は自らがつくるものという理解と、またそれと同時に、基礎的な知識の獲得・応用に努め授業を進めた。教育方法は、両者とも授業スライドを授業資料として活用し、前週が終了した週に次回予習のための次週スライドをグループクラスルームに上げ予習を促した。これによって、本時前にテキスト内容とともに予習ができるため（PCR シート予習・復習³⁾）、自己学修の一助となると考えている。さらに、PCR シート内に、授業中に分からなかった言葉や内容について、調べて記述する部分を設けているため、その部分も自己学習の一部になる。また、中間テスト⁴⁾を行い、中間到達度を可視化するとともに、本時のなかでフィードバックを行い、学生が顧みる時間を設けた。

公衆衛生学Ⅱ（2 年前期）もまた、同様に進めているが、授業で扱う内容が実生活に即した保険制度・環境・法律などが中心となるため、学生には距離がある、空論としないためにも、授業内容から一つテーマを斑で抽出し、最終週に課題の背景、抱える課題、解決策などのプレゼンテーションを課した。ねらいは、少しでも保健・社会制度が身近なものであること、人々の暮らしを支え、困窮者の救済支援に基づいたものであることを理解してもらうため、さらに自分たちを取り巻く環境が、世界がどのような状況にあるのか、事実を理解しどうすべきかを模索してもらうことを目的としている。講義科目では、シラバスの到達レベル C の基準にある課題を中間テストおよび期末テストの一部に含んでいる。

公衆衛生学実習は、実習プリント⁵⁾を前週にクラスルームに上げ予習を促した。科目の特性として、健康の指標、労働衛生、環境衛生などの計測を行った。項目が終了する度に、レポートに求めて各自が報告してもらい、提出された実験レポートは全て評価を付し、フィードバックを行った。さらに、最終週には全ての内容について、目的、方法、結果、考察をグループワークとしてプレゼンテーションしてもらい、振り返りに繋げた。

〈シラバスに記載している評価方法〉

健康管理概論：試験 70 %、中間テスト 20 %、社会人基礎力を 10 %として評価している。

公衆衛生学Ⅰ：試験 70 %、中間テスト 20 %、社会人基礎力を 10 %として評価している。

公衆衛生学Ⅱ：試験 70 %、中間テスト 10 %、成果発表 10 %、社会人基礎力を 10 %として評価している。

公衆衛生学実習：中間 テスト 20 %、レポート 70 %、社会人基礎力を 10 %として評価している。

4 授業改善の活動

昨年度の授業評価アンケート結果から、また、クラスルームを通じて寄せられた質問や中間テストの結果から改善点を抽出している。主に、授業への還元として、本時の復習や課題内容の改善を行っている。また、その授業評価におけるリフレクションパーパーに改善案を記載している。改善によって評価成績が前年度より向上したか否かを評価から考察している。

5 学生の授業評価

公衆衛生学Ⅱおよび、公衆衛生学実習は、ほぼ「強くそう思う。」「ややそう思う。」の評価であり、高い評価結果を示した。公衆衛生学Ⅰは「分類が同じ科目の回答状況」の平均値とほぼ同じ結果を示した。特に高かった評価は、質問 1「教員は、授業時間分の学修内容を実施していた。」と質問 4「教員は、学生の理解を確かめていた」であった。授業のなかで学生との会話から感じることは、言葉の解釈や意味を説明する必要があると感じている。また、実習や卒業研究など、距離感の近い授業は評価が高い傾向があると感じる。座学において、成績が 2 極化傾向にあるため、指導に難しさを感じている。

6 学生の学修成果

公衆衛生学実習（2 年後期開講）の評価分布を示した。各項目のレポート評価(70%)、中間テスト(20%)、PCR シート、社会人基礎力(10%)の総合点として評価している。実習はグループワークを通して協働することで進められるため、他者の意見を聞くこと、コミュニケーション力・調整力が求められる。これらを含めレポートに反映させることが求められる。また、獲得した知識を試験において課題を解くことで、解決できる流れを作っている。

2024	秀(S)	優(A)	良(B)	可(C)	不可(F)
平準化目安	10%	30%	35%	25%	
公衆衛生学 実習	3%	33%	33%	17%	0%

7 授業科目に関連した教材開発
① テキスト：Active Aging 健康管理学 - 予防医学の視点から - （第2版）岡田悦政・岡久玲子・鈴木寿則・小林靖・小林敏生・岡田瑞恵・神田裕子・大槻伸吾・中西員茂・藤岡弘季著 八千代出版 2021 年 4 月 第6章執筆 ② 授業進行プリント（公衆衛生学実習、グループワークシート、課題を一部含む）の作成 ③ 授業スライド（健康管理概論・公衆衛生学Ⅱ・公衆衛生学Ⅰ・公衆衛生学実習・管理栄養士特論 A・B・C）の作成 ④ PCR シートの作成（予習・復習 / チャレンジ課題、授業中において分からなかった言葉・内容調べの部分を含む）
8 指導力向上のための取り組み
② 学内 FD 研修による学び：様々なスキルや方法など、取り入れられる要素を自らの授業に取り入れている。 ②公開授業による学び：改めての気づきも多くあり、自分なりに咀嚼した形で取り入れ授業展開の見直しを行っている。 ③アウトリーチ・委員会を通した他学科の教員からの学び：他学科の教員との協働によって、考え方、視点の異なりからの学修を通し、授業に還元することに努めている。 ③ 同学科の教員からの学び：会議、話し合いなどを通した様々な学びがある。
9 今後の目標
1 年生の場合、知識の定着の不足で理解に繋がらないケースがあると感じている。定着した学修習慣の不足が原因と思われる。そのため、本時に復習時間を持ち、知識の定着に寄与できることを考えた。具体的には、本時の最後の「まとめ」を行う時間に、アクティブリコール法を用いて、知識の定着に繋がりたいと考えている。自己採点も行うため、不足している知識も補足できると考えた。
10 添付資料
1) 2024 年度シラバスを参照（健康管理概論・公衆衛生学Ⅰ・公衆衛生学Ⅱ） 2) リフレクションペーパー2024 前期・後期 3) PCR シート（健康観理学概論および公衆衛生学Ⅰ） 4) 中間テスト（健康管理概論および公衆衛生学Ⅰ） 5) 公衆衛生学実習 実習進行用プリント